

良質な個別サービスの実施(児童養護施設)

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
A-1 利用者の尊重						
(1) 利用者の尊重						
1	1					子どもとの信頼関係の構築のためにできるだけ子どもの気持ちを汲み取るよう心がけている。しかし時に職員の実験年数や資質などにより必ずしも適切、十分な援助とはいえない場面もある。
2	2					子どもたちはどの子も自分のことで手いっぱいであるが、子どもたちに他者への心遣いができるよう、また協調性や社会のルールを尊重するなどの気持ちが育つよう、職員全体で意欲を持って取り組んでいる。
3	3					児童集会(小・中・高校生の集会)や自治会、週例会などにおいて、子どもたちの主体的な活動を推進し、生活改善に向けて前向きに取り組めるよう支援している。
4	4					施設の行う援助について、事前に説明し、子どもが主体的に選択(自己決定)できるよう支援している。
5	5					多くの生活体験を積み重ねる中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通して、健全な自己の成長や問題解決能力を形成できるように支援している。
6	6					多くの人たちとのふれあいを通して、子どもが人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重し共生ができるよう支援している。
7	7					子どもの発達に応じ、本人の出生や生い立ち、家族の状況等について、子どもに適切に知らしている。
(2) 利用者の権利擁護						
8	1					体罰禁止は就業規則にも明記されており、日常的な取り組みが進められているが、現状で十分であるとは言えないと判断した。
9	2					不適切な関わりなどに関する具体例を示して話し合いがされ、未然防止や早期発見に取り組んでいる。しかし、職員、子どもたちへの不適切な関わりの防止等についての周知・研修・学習については十分とは言えないと判断した。
10	3					入所時に子どもや保護者に対しきちんと説明もなされており、思想や信教の自由は保障されていると判断した。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
A-2 日常生活支援						
(1) 食生活						
11	1					月1回の給食運営会議を持ち、発達段階にある子どもたちの食事内容について十分な配慮がされ、食器や照明にも楽しく食べられるよう工夫がなされている。食堂の壁に子どもたちによる光熱水費のグラフが貼り出されており、様々な面から食事に関する意識を高める工夫がされている。
12	2					帰りの遅くなる子どもに対しても食事時間は柔軟に設定され、また平日と土日の食事時間に工夫があるなど、子どもたちの生活時間に合わせた食事時間が配慮されている。
13	3					外食体験や、小グループでの調理や後片付けの習慣を身に付ける機会を設定するなど、食習慣習得のための支援をしているが、頻度が少ないなど十分とはいえない。
(2) 衣生活						
14	1					衣生活に関する取り組みは適切に配慮、支援されている。
15	2					個々の収納スペースも確保され、子どもが衣習慣を身に付け、衣服に関する自己管理、衣服を通しての自己表現ができるよう支援されている。
(3) 住生活						
16	1					外部からの侵入者対策、全室床暖房・冷房設備の設置等の配慮はされているが、くつろげる空間の確保は十分とは言えないと判断した。
17	2					全員が掃除当番で、また役割分担は子どもたち同士で話し合っ決めてもらい、整理整頓や掃除等の習慣が身に付くよう、生活技術を高めていく支援に取り組んでいる。
(4) 衛生管理、健康管理、安全管理						
18	1					小学生・中学生とその発達段階に応じた清潔・病気・事故等についての自己管理に関する指導は積極的にされている。
19	2					医療機関との連携は日ごろから適切に取られているが、医療や健康に関する学習機会の設定は十分とは言えず、今後の課題である。
20	3					虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
(5) 問題行動に対する対応						
21	1					問題行動のある子どもの特性等に関して職員間での情報共有等はなされており、問題行動があった場合の対応もされているが、周囲の子どもの安全確保を図る配慮の点では十分とは言えないと判断した。
22	2					全職員が適切に対応するよう取り組んでいるが、人権に対する意識を施設全体に徹底させる点では十分とは言えないと判断した。
(6) 自主性、自立性を尊重した日常生活						
23	1					行事等への子どもの参画については配慮、支援されており、一人ひとりの選択も尊重されているが、子どもが主体的に行事の企画・運営に関わるまでには至っていない。
24	2					クラブ活動等は本人の希望を取り入れ、自発的な活動ができるよう工夫しているが、外部での習い事等については十分な対応とは言えないと判断した。
25	3					年齢に応じた小遣いを渡し、使途や金銭管理について身に付くよう支援しているが、日常的に無駄遣いをしない、節約をする、などを体験する機会が十分提供されているとは言えないと判断した。
26	4					子どもの友達や地域との関係については交流を広げ深めるよう、その環境づくりに取り組んでいる。児童用の公衆電話も設置されている。また地域活動への参加にも積極的である。
(7) 学習支援等						
27	1					学習スペースの整備、学習習慣が身に付くような支援、学習指導ボランティアの導入など、学習支援についても積極的な取り組みがされていると判断した。
28	2					職員研修の一環として性教育の専門部会を作り勉強会を始めているところである。現在、子どもの発達段階に応じた性教育カリキュラムを作成中である。
(8) メンタルヘルス						
29	1					常勤の心理療法士を配置し、支援内容の記録を職員間で共有するなどして、日常的に心理的な支援を行っている。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
A-3 自立支援						
(1) 進路指導等						
30	1					進路の選択にあたっては判断材料や情報の提供を行い、本人と十分に話し合い、保護者、学校、児童相談所等の意見も聞いている。また職員会議においても検討し、最終的に本人が自己決定できるよう支援している。
31	2					職場体験学習のマニュアルが用意されており、それに基づき子どもの社会経験の拡大、自立支援に取り組んでいる。
(2) 家族とのつながり						
32	1					家庭支援専門相談員・担当職員を中心に施設と家族との信頼関係の構築に努めている。日常的には電話で行っているが、帰省時に家族が引き取りに来る際などを利用して情報の提供等を行っている。児童相談所との連携も適切に図られている。
33	2					宿泊設備も整っており、面会・外出・一時帰省に関するマニュアルが用意されており、それに基づき積極的に実施されている。